

令和4年後期終業式

- 昇降口前の高松桜が満開となったり、またWBCでの侍JAPAN優勝の興奮に日本中が酔いしれるなど、明るい気持ちで年度末を迎えていますが、残念ながら今年度も新型コロナウイルスに振り回され、本校の様々な教育活動も制約され、皆さんにとっても、息苦しく窮屈な日々が多かったのではないかと思います。しかし、3月13日から日常生活でのマスクの着用が個人の判断に委ねられており、また、学校現場においても、手指消毒など感染防止に心がけながら、新年度からは、「登下校時の混雑した電車やバス」と「校外学習での医療機関や高齢者施設の訪問」は着用を推奨しますが、基本的にはマスクの着用は不要となります。GW明けの5月8日からはこれまで“2類”扱いからインフルエンザ並みの“5類”扱いとなり、先日の同窓会主催の講演会での松岡先生の話にもありましたが、本格的にウイルスとの共生、“with コロナ”の時代となります。
- 歴史を振り返ってみれば、これまでにウイルスのパンデミックは、度々人類の歴史を大きく左右してきました。例えば、古代ローマ帝国を崩壊に導いたゲルマン民族大移動、これを誘発したフン族の東進の要因の一つが疫病の流行ではないかということ、また14世紀にヨーロッパで大流行したペストにより、農奴制の崩壊が進み、封建的身分制度が解体し、中世が終焉を迎えたこと、さらには20世紀初めのヨーロッパを中心に大流行したインフルエンザである“スペイン風邪”が、遠因となり第一次世界大戦が終結したことなどがあげられます。
- 今回の新型コロナウイルス・パンデミックが人類にとっていかなる影響を及ぼしたかは、今後様々な検証がなされていくことと思いますが、学校生活においては大きな変化がありました。例えば、一人一台端末による「GIGAスクール構想」の進展、また、利便性の高いオンライン授業やオンライン会議、集会の実施などが上げられます。
- また、コロナ禍とは直接関係はないですが、学びについては、従来から行われていた理数科の課題研究に加えて、昨日発表会がありました「1、2学年の総合的な探究の時間への取組み、また「マイプロジェクト長野県サミット」や飯田市公民館主催の「東北スタディーツアー」への参加、さらには信州大学先取り履修講座受講など、様々な学びの場を活用して、主体的、意欲的に“探究的な学び”に取り組む姿勢が見られ今後は益々楽しみだと実感しています。
- コロナ禍、モノの見方や生活様式などで大きな変化が見られた反面、これまで当たり前と思っていたことが、いかに大切だったかということにも気付かされたのではないのでしょうか。

- 3月2日に第75回卒業証書授与式が行われました。コロナ感染拡大防止の観点から、残念ながら今年度も在校生である皆さんの出席はかないませんでした。卒業生239名は高校生活最後の一日が刻一刻と静かに過ぎていくのを感じながら、厳かな雰囲気の中で卒業式が行われました。
- 式の中で、前生徒自治会長の佐藤峻君が卒業生を代表して答辞を述べました。その中で在校生である皆さんに対するメッセージが述べられていたので、紹介したいと思います。
- 「…（私たちは）なんの制限もない普通の高校生活を一日として過ごしたことがあります。ですが、この3年間で過ごした私たちだからこそ、気付いたことがあります。それは、学校生活を送ることが出来る尊さです。1年生の時、高校生活最後の大会が中止になったことに悔しい思いをしている3年生の姿を見て、班活動を通して大きな目標を目指すことができること、学校生活を思い切り楽しむこと、毎日学校に来て友達と会えること。他愛もない日常の尊さに気付かされました。残念ながら、今日この場にはいらっしやいませんが、在校生の皆さん、高校生活は、人生で一度だけです。何気ない一日一日を大切にしていって悔いのないよう過ごして下さい。…」
- 皆さん個人レベルでは様々なことがあった今年度だったと思いますが、大きな事故等もなく終わることができそうです。このことは「規律ある学窓」「反暴力」という“学窓92”の精神を遵守し、飯田高校生としての自覚と矜持を持って日々過ごしてくれたおかげであると思っています。大変感謝しております。
- あと10日あまりで、新年度が始まり、また忙しい日々が始まるかと思っています。それまでわずかな間ですが、今年度1年間で振り変えるとともに、自分自身を見つめ直し、新年度への心の準備をしてもらいたいと思います。